

エコフィル、ゴムチップの環境へ及ぼす影響について

発ガン性について

一般的にゴムは弾力性を増やすために、加硫剤・加硫促進剤という添加剤を多量に使用しています。この添加物の種類は多く、農薬や殺虫剤のように生物を殺す薬剤に使われることがあり、有毒性が考えられます。

しかし**エコフィル (ECOFILL)** は加硫工程を行っていませんのでその心配はありません。

またゴム特有の臭いは、加硫された硫黄によるものです。一般に硫黄化合物は、硫化水素やメルカプタン類などのように、ごく微量でも強烈な臭いがあります。IARC（国際ガン研究機関；WHO直轄機関）の報告では、ゴム工業の事業所は、人間に発ガン性のある環境（IARC1：人に対して発ガン性を示す物質）とされています。

燃焼性について

合成ゴム（SBR）は一旦火が着いてしまうと、それ自体が長時間にわたり黒いすすを発生しながら、燃焼する性質があります。それに比べエコフィル（ECOFILL）は樹脂と合成した物質ですから自己消炎性があり、燃え広がる心配はありません。特にグラウンドは避難場所として指定される場合が多く、このような点も留意する必要があります。

ECOFILL



SBR



汚染性について

前項でも述べましたゴム燃焼時に発生する黒いすすには亜硫酸ガス（硫黄酸化物）が多分に含まれます。この硫黄酸化物は、それ自体有害でありますし、喘息を引き起こす等呼吸器への影響が顕著であります。もちろん亜硫酸ガスは雨に溶けると酸性雨となることは言うまでもありません。

エコフィルは硫黄を含有しておりませんのでその危険性は極めて低いと言えます。

また合成ゴム、特にタイヤや自動車用ゴム部品は老化防止剤を多く使用しており、この老化防止剤は毒性を持ちます。雨水や、経年によって溶解することも考えられ、特に細かくチップ状に粉砕することによってその表面積は増えますから、その危険性は上がります。

エコフィル、黒ゴムチップには、特別有害な重金属類は含有されておりませんが、含有されています**亜鉛**は水質汚濁防止法によって要監視項目に上げられていますので、下記にて含有量を明記しておきます。

エコフィル：3,000 $\mu\text{g/g}$

一般ゴムチップ：22,000 $\mu\text{g/g}$

試験（財）化学物質評価研究機構

製造  **クリヤマ株式会社**

販売 **株式会社 ジャクエツ**